府川論文(No.2005-02)へのコメント

佐藤雅代（北海道大学公共政策大学院）

総括的なコメント

○　この論文は、1999 年 4～9 月までの 12 市町村の国保老人のレセプトを用いて、受診者１人あたり外来医療費、受診者分類別外来医療費、外来死亡者の受診行動の分析を行っているものである。

○　外来受診行動に地域差があることを明らかにすると同時に、受診者単位の分析の必要性を指摘している点に、重要な意義と貢献がある。

質問

○　外来受診者の入院の有無は考慮しているのか。

○　12 市町村の属性を考慮しなくてよいのか。
たとえば、医療機関の数に差（受診機会の差）がある場合、複数の医療機関を受診するのではなく、1 つの医療機関に何回も通うということがあるのではないか。

○　受診日数を考慮しなくてよいのか。
複数の医療機関に通うのと、1 つの医療機関に何回も通うのと、どちらも頻回受診と定義することができると思うのだが。

○　平均値という指標のみでよいのか。
たとえば、高額の医療費を必要とした受診者（人工透析）は、平均医療費を大きく引き上げることが予想される。受診者総数が大きくない場合、それは結果を歪めることになるのではないか。